

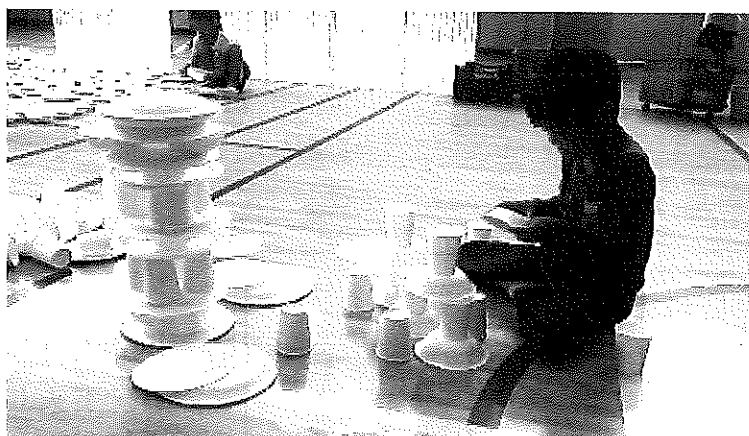
図工・美術研究部テーマ

「造形教育はこれからも未来をつくる」

～身に付けさせたい力は何かを問う～

「共通の材料を生かした授業展開の工夫」

～低・中・高学年の実践を通して～



成田市立美郷台小学校 滝澤 里美  
印西市立船穂小学校 生澤 美樹  
佐倉市立間野台小学校 石井 音羽

2022年8月24日（水）

成田市立久住中学校

## 1 研究主題

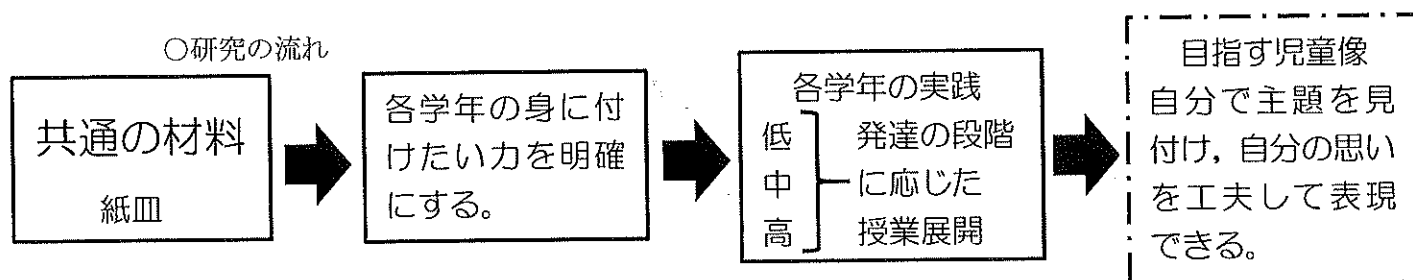
「共通の材料を生かした授業展開の工夫」  
～低・中・高学年の実践を通して～

## 2 主題設定の理由

教職経験5年目を終えて、図画工作科への見方が変化した。始めの頃は、大人の目から見た、見栄えや出来映え重視の作品づくりが児童にとってよいと考えていた。しかし、児童が自由に伸び伸び作品づくりに取り組む様子から、「今までの指導の仕方には課題があるのではないか。」と考えるようになった。学習指導要領の教科目標「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。」に明記されているように、「自分で主題を見付け、自分の思いを工夫して表現できる児童」の育成をすることが大切だと考え、本主題を設定した。

研究するにあたって、提案者の3人が前所属校において、低中高学年の担任であった。そのため、各学年の発達段階に応じた授業展開をしていこうと計画した。

### ○研究の流れ



5月 児童の実態把握。アンケート実施・集計。

6月 授業づくり。材料準備。

7月 授業実践

8月 成果と課題をまとめる

### 3 研究仮説について

#### 【仮説1】

各学年の身に付けたい力を明確にし、材料を生かした授業展開を工夫することで、自ら主題を見付けて思いを表現することができるだろう。

手立て① 各学年の発達の段階に応じた授業展開の工夫（材料・場）

手立て② 材料との出会わせ方の工夫

〈各学年の手立て〉

低学年：①材料は白色のみを扱い、立体的な発想ができるように紙皿・紙コップなどの5種類を用意した。体全体を動かせるように体育館で行う。

②材料と触れ合う時間を設定し、材料の特性を見付けさせる。

中学年：①加工しやすい材料を使った工作活動

②紙皿だけを使って、何がつくれるか試行錯誤する「お試しタイム」行う。

高学年：①単色のみでの工作をして、糸類を使用した。広さや奥行きなどの特徴を生かして飾り付けるために、学校の敷地内にある「モンキーパーク」を使用する。

②切ったり組み立てたりを試す時間の設定

#### 【仮説2】

活動の中に相互評価の場を設定すれば、自分の見方・考え方が広がり、表現する力が高まるだろう。

手立て① 互いの活動を見合える場の設定の工夫

手立て② 活動中での相互評価の場の設定の工夫

〈各学年の手立て〉

低学年：①材料置き場の工夫をし、友達と関わりながら活動していく。

②「お店屋さんごっこ」を通した鑑賞活動を行う。

中学年：①材料置き場の工夫や、少人数の班で友達と関わり合いながら個人で製作する。

②友達の作品や自分の作品のよさを伝え合う鑑賞活動を行う。

高学年：①6人グループでの共同製作の時間を設定する。

②友達の作品と自分の作品を見合い、よさを伝え合う鑑賞活動を行う。飾り付けた「モンキーパーク」へ兄弟学級の1年生を招待する。

## 低学年実践授業

前所属：佐倉市立井野小学校 滝澤 里美

(1) 題材名 「ならべて つんで たのしんで」〔造形遊び〕(1年)

(2) 題材について

本題材は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容を受けて設定した。

### A 表現

- (1) ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。
- (2) ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

### B 鑑賞

- (1) ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

#### 〔共通事項〕

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

そこで本題材では、自分の感覚や行為を通して身近な材料である紙皿の特性を見付け、紙皿の並べ方や積み方を試したり、見付けたりしていくことで自分の思いを表現することをねらいとしている。

児童は今までにブロック遊びや積み木などで、何かを並べたり、積んだりする経験がある。また、紙皿は児童にとって身近な材料であり、生活の中でも触れたことがあるものである。この題材を通して、いろいろな並べ方やつなげ方、積み方があることに気付かせ、活動を広げていくことができると考えた。

活動ではグループを指定せず、自分の思いに沿って材料の形、大きさなどの組み合わせを楽しませることで、自由に発想ができるだろうと考えた。ときには友達と協力することで、いろいろな並べ方や積み方の楽しさ、面白さを味わうことができると考えた。さらに活動を通して、友達の工夫を見付けたり、自分の工夫を紹介したりしながら交流を深めることで、材料の形の面白さ、大きさの面白さに気付くことができるだろう。

(3) 児童の実態 (1年生 男子16名 女子14名 計30名)

授業前に、紙皿を扱った経験について実態を調査した。

①紙皿を使って絵を描いたり、工作したりしたことがあるか。

ある・・・25名 (83%)

ない・・・5名 (17%)

②紙皿を使って何をしたことがあるか。

○絵を描く

・花 ・たんぼぼ ・時計 ・食べ物 ・動物 ・自分や友達の顔

○工作

・動物 ・花 ・メダル ・食べ物 ・季節の飾り (ひなまつり・節分の鬼・こいのぼり)

・シーソー ・人形 ・おもちゃ

○その他

・粘土や紙粘土と合わせて工作した

③紙皿を並べたり、積んだりして何がしたいか。

・花 ・タワー ・迷路 ・電車 ・家 ・ピラミッド ・線路 ・道路

児童の実態から、多くの児童に小学校入学以前から紙皿を扱った経験があることが分かった。質問②では、絵を描いた経験、工作をした経験があることが分かった。児童にとって紙皿は簡単に手に入る身近な材料であり、円形から様々な発想がしやすい材料である。そのため多くの児童にとって親しみのある材料であることが分かった。質問③では、本題材の紙皿を「並べて・積む」では、どんな活動をしたか聞いた。紙皿を並べて遊んだり、何かに見立てて形をつくったり、ごっこ遊びのようにして遊びたいなど様々な意見が出てきた。

#### (4) 仮説との関わり

<仮説1について>

手立て① 各学年の発達の段階に応じた授業展開の工夫

【材料について】

○材料は白色のみを扱う

形に注目して、造形遊びができるように色は白色のみを用意した。

○紙皿・紙コップ・深い器などの材料を5種類

低学年の特性として、「並べる」という平面的な発想はできるが、「積む」という立体的な発想がしにくいと考えた。そのため紙皿だけでなく、紙コップ・深い器など高さがあるものも用意した。

【場所について】

○体育館での造形遊び

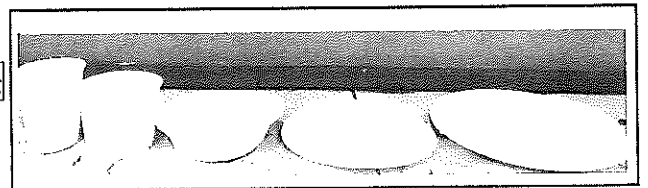
児童が材料と十分に関わることができるように、広くて安全な場所である体育館で行った。一人一人が発想を広げることができたり、友達とも共にのびのびと活動したりできる場所を設定した。

手立て② 材料との出会わせ方の工夫

【導入の工夫】

○材料と触れ合う時間の設定

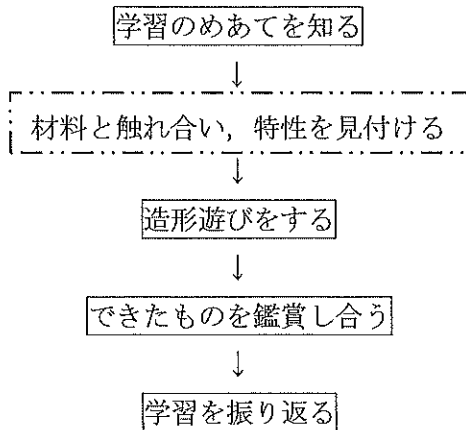
材料の特性を見付けどんな並べ方、積み方ができるかイメージをもつために、材料と触れ合い、友達と話し合う時間を設けた。そのため紙皿を触ったり、よく観察したりすることで、体全体を使ってその特性に気付かせていきたい。また、友達と話し合うことで、自分の見方や考え方を広げることができるだろう。



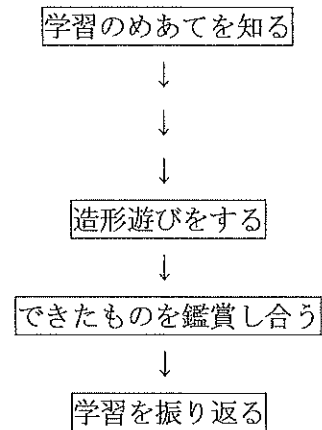
※材料と触れ合う時間の設定があることとないことで、児童の思考にどんな違いが出るかを研究することとした。

○学習の流れ

〔材料と触れ合う時間がある〕【A案】



〔材料と触れ合う時間がない〕【B案】



<仮説2について>

手立て① 互いの活動を見合える場の設定の工夫

○友達と関わりながら活動

自分の思いに沿って表現するために、グループは指定しなかった。一人で活動したり、ときには友達と協力したり、話し合いながら自由に活動できるようにした。

○材料置き場の工夫

材料は体育館の中央に置いた。中央に置くことで、材料を取りに行く間に、友達の作品を鑑賞することができ、次に何をしたいか考えを思い付くことができると考えた。

手立て② 活動中での相互評価の場の設定の工夫

○「お店屋さんごっこ」を行う

普段の授業から「お店屋さんごっこ」を通して、友達の作品を見合う鑑賞活動を行っている。自分の作品のよいところをたくさん見付け、見に来たお客さん（友達）に伝える。お客さんになった児童もお店屋さんの児童の作品のよいところをたくさん見付け、質問したり伝え合ったりする活動の場を設定する。

(5) 題材の目標

- ・材料の形、大きさなどの特性を見付け、並び方や積み方など、手や体全体の感覚を働かせながら、活動を工夫してつくることができる。 (知識及び技能)
- ・材料の形、大きさなどの特徴をもとに造形的な活動を思い付き、どのように活動するかを考えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・材料の形や大きさに関心をもち、材料の並び方や積み方を試しながら、楽しく取り組もうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

〔共通事項との関連〕


- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

(6) 指導計画 (1時間扱い)

次	時	学習活動
一	1	紙皿を並べたり、積んだりする。

(7) 児童の学習活動

○A案 [材料と触れ合う時間がある] 【仮説1手立て②との関わり】

時配	学習内容・支援 (○活動・支援)	児童の様子
5	<p>かみざらをならべたり、つんだりしよう。</p> <p>○紙皿と触れ合い、並べ方、積み方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙皿、紙コップ、深い器など5種類の材料があることを伝え、材料の特性に触れさせる。</li> <li>・自分で材料の特性を見付けたり、友達と話し合ったりして見付けさせる。</li> </ul> <p>T「紙皿や紙コップの大きさや形をよく見てみよう。」</p> <p>T「紙皿を触ったり、比べたりしてみよう。」</p> <p>T「どんな並べ方や積み方ができるかな。」</p>	<p>材料に触れ合い、特性を見付ける活動</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お皿の大きさがちがうよ。」</li> <li>・「コップやスプーンの器があるよ。」</li> <li>・「長くお皿を並べたら、迷路みたい。」</li> <li>・「お皿とコップを合体したら、プリンみたい。」</li> <li>・「お皿とコップを使ったら、高く積みそう。」</li> <li>・「コップを逆さま同士にしても、高く積めるよ。」</li> </ul>
25	<p>○紙皿の並べ方や積み方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動がしやすく、互いに見合えるように真ん中に材料を置く。</li> </ul> <p>【仮説2手立て②との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館のコーン、跳び箱、床のラインなどの色や高さのあるものも使えるようにする。</li> <li>・一人で並べても、友だちと一緒に並べてもよいことを知らせる。</li> </ul>	<p>造形遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上に高くするために、どんな積み方がいいかな。</li> <li>・どんな並べ方をしようかな。</li> </ul>

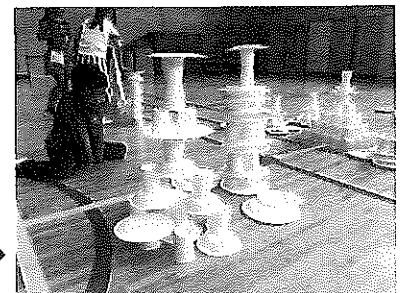
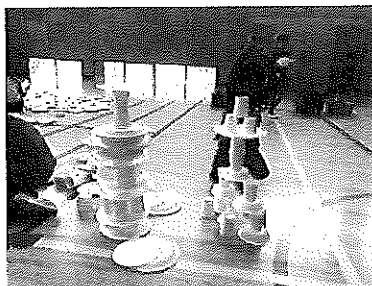
\*児童Aを中心に児童B・C・Dと活動が広がった。個々に取り組む児童が多かった

○児童A 日頃から自分の思いを表すことができる。発想が豊かで黙々と活動することが多い。



「お皿やコップ、たくさんあるなー。」  
「どうやって組み合わせようか・・・」

「やったー。高く積めた!!!」



「完成だー。倒れないぞ。」  
「上手くできた。満足だ。」

○児童B 手先が器用で、自分の思いを表現できるが、自信がないため手が止まってしまうことがある。



児童Aと活動していた。  
つくっては壊し、何度もつくり変えていた。

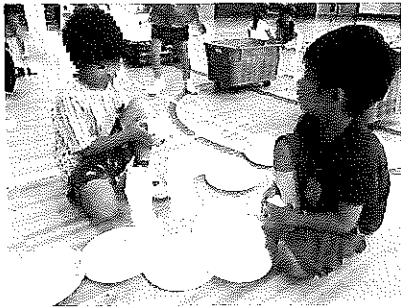
児童Aの様子を見て.....



「どうしようかな。どうしたら、高く倒れずにできるかな？」

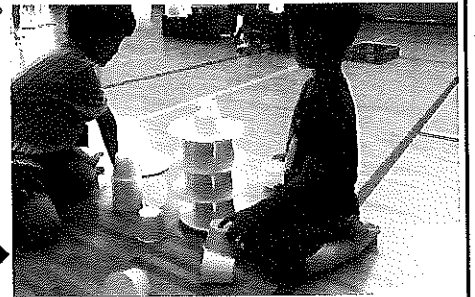
「そうだ！深い器を逆さまにして、四角をつかって並べて、重ねていこう！」

○児童C・D 想像して描いたり、つくったりすることが得意ではない。



2人で活動していた。  
周りを見回していることが多く、なかなか手が進まなかった。

児童A・Bの様子を見て.....



「お皿やコップ、どうしたらよいかな。」  
「なにしようかな.....」

「深い器を逆さまにしてお皿の上に並べて重ねたら、高く積みそうだよ！」

\*体をのびのびと動かして大きく活動していた。別々のグループが最後には合体して取り組んだ。

○道路や線路と見立てて材料を「並べる」ことが中心だったグループ

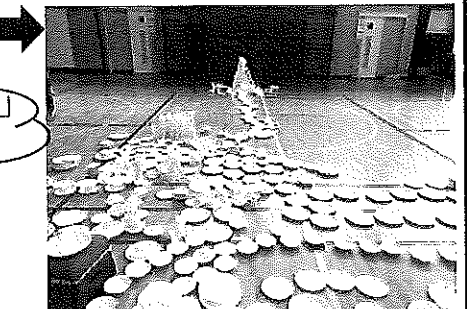
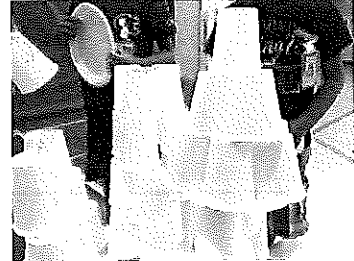


お城と町ができた！

「たくさん並べて道路ができたよ。」  
「この中を車が走っていそう。」

「並べたけど、何か足りないな。」  
「もっと、何かできないかな。」

○材料を高く「積む」ことが中心だったグループ




「お城みたいになった。」


「コップを逆さまにして重ねたら、面白い形になったよ。」

「お城があるけど、道がないから、町にならないな.....」



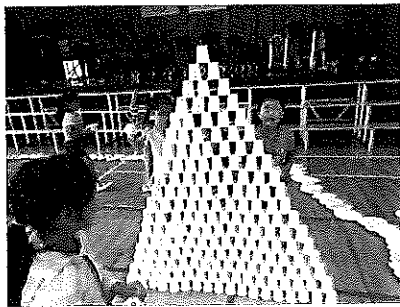
10	<p>○お店屋さんごっこを行い、できたものを見合 って、互いに鑑賞し合う。</p> <p>【仮説2手立て①との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの並べ方、積み方の工夫に気付けるよ うにさせる。</li> </ul> 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">できたものを鑑賞し合う活動</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「タワー、高いビルができたよ。」</li> <li>・「お菓子の城と、プリンをつくったよ。」</li> <li>・「ながーいレールと船をつくったよ。」</li> <li>・「高く積んだ時のバランスが難しかった。」</li> <li>・「カップを何列も並べて積むと、倒れなかつたよ。」</li> <li>・「難しかったけど、楽しかった。」</li> <li>・「また、やりたいな。」</li> </ul>
5	<p>○後片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種類ごとに整理して片付けさせる。</li> </ul>	

○B案【材料と触れ合う時間がない】【仮説1手立て②との関わり】

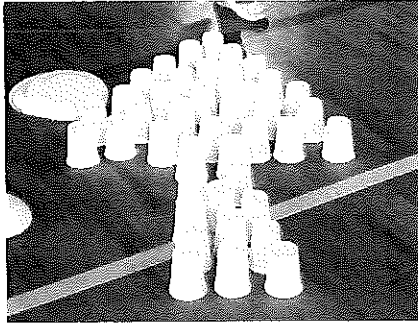
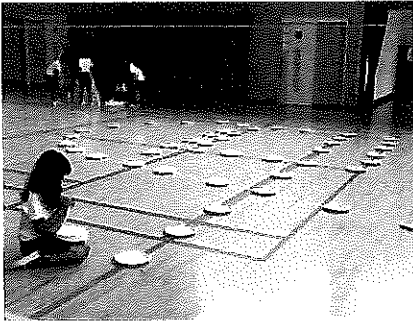
時配	学習内容・支援（○活動・支援）	児童の様子
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">かみざらをならべたり、つんだりしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を知らせる。</li> <li>・一人で並べても、友だちと一緒に並べてもよ いことを知らせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">学習のめあてを知る</div>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たくさん、お皿が あるね。」</li> <li>・「何しようかな。」</li> </ul>
25	<p>○紙皿の並べ方や積み方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料は前に置く。</li> </ul> <p>【仮説2手立て②との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館のコーン、跳び箱、床のラインなどの 色や高さのあるものも使えるようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">造形遊びをする</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上に高くするために、どんな積み方がいいか な。</li> <li>・どんな並べ方をしようかな。</li> </ul>

○【材料と触れ合う時間がない】【仮説1手立て②との関わり】

→5種類の材料の特性を見付けきれいないため、発想が広がらなかった児童がいた。



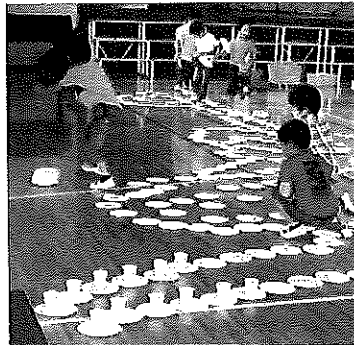
- ・同じ種類の材料を使っている。
- ・様々な材料を使って取り組んだ  
児童が少なかった。
- ・どのクラスも「積む」作品が  
平面1列のピラミッドが多かった。



- ・「並べる」ことも同じ材料のみを使っていた。
- ・想像しながら並べるのではなく、何となく並べるといった活動をしていた児童が多かった。

○材料置き場の工夫（体育館の中央に置く）【仮説2手立て②との関わり】

→B案では、体育館の前に材料を置いた。



- ・体育館の前から後ろまでの移動が長く、材料を大量に持って来て、移動を少なくしていた。そのため個々の場所で作業をしていた。
- ・別々のグループが関わり、作品が合体することが、無かった。

10

○お店屋さんごっこを行い、できたものを見合  
って、互いに鑑賞し合う。  
・友だちの並べ方、積み方の工夫に気付けるよ  
うにさせる。



5

○後片付け

・種類ごとに整理して片付けさせる。

できたものを鑑賞し合う活動

- ・「大きなピラミッドができたよ。」
- ・「何回も倒れて、グラグラしてた。」
- ・「高く積むのが、難しかったよ。」
- ・「文字を書いたよ。矢印、ハート。」
- ・「アルファベットを書いた。」
- ・「迷路ができた。」
- ・「線の上に並べたよ。」
- ・「UFOと秘密基地になったよ。」

## (8) 成果と課題

### ○仮説1について

#### <成果>

- ・材料を白色のみにしたことで、形に注目して、取り組むことができた。
- ・材料を5種類用意し、紙コップや深い器があることにより、どの児童も立体的に「積む」発想がよくできていた。
- ・材料と触れ合う時間を設定することで、材料の特性を見付けることができた。様々な材料の組み合わせ方を考え、手が止まることなく、何度もつくり、つくりかえて豊かな発想をすることができた。

#### <課題>

- ・身に付けたい力を意識して、共通の材料である紙皿の他に器などの材料を用意した。ほかの題材の授業においても用意する材料については、その単元で身に付けさせたい力を明確にして、今後も研究をしていかなければならない。
- ・材料の数量の用意、他クラスとの授業時間の調整など念入りに計画する必要がある。

### ○仮説2について

#### <成果>

- ・「お店屋さんごっこ」を通して、鑑賞活動を楽しむことができた。どの児童も自分の作品のよいところをたくさん見付け、見に来たお客さん（友達）に伝えようと進んで活動していた。
- ・材料置き場を中央にしたことで、材料を取りに行く際に、互いの作品を見合いながら活動できた。その結果、別々で活動していた児童も、自然と他の友達と関わりながら活動に取り組み、豊かな発想につながることもできた。

#### <課題>

- ・「お店屋さんごっこ」の中でお客さん側からお店屋さんの児童の作品のよいところを見付け、質問したり伝え合ったりすることができていない児童がいた。コミュニケーション能力を高めるためには他教科でも、意図的に話し合いの場を多くもつ必要がある。

# 中学年実践授業

前所属：佐倉市立佐倉東小学校 生澤 美樹

(1) 題材名 紙皿大変身 なにができるかな？

(2) 題材について

本題材は、新学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

## A 表現

- (1) イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見付けることや，表したいことや用途などを考え，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えること。
- (2) イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

## B 鑑賞

- (1) ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品や身近な美術作品，製作の過程などの造形的なよさや面白さ，表したいこと，いろいろな表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げること。

### [共通事項]

- ア 自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じが分かること。
- イ 形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。

本題材では，身近で，加工しやすい材料である「紙皿」を使い，材料の特徴から感じたことや想像したことを表現する工作活動である。

児童は，第3学年で，「紙粘土」を材料とした工作の活動を経験している。「カラフルねん土のお店へようこそ」では，粘土の形や色に着目しながら，小物入れやストラップなどをつくり，色の組み合わせや粘土の形の変化を楽しむことができた。しかし，児童の中には，すぐに表現したいことが思いつかず，戸惑う児童の姿がみられた。

そこで，本題材では，「紙皿」という身近な材料と触れ合うことで，児童が自分のイメージを広げながら工作活動ができないか考え授業を展開した。活動の導入では，紙皿だけを使って自由に創作する時間を設け，児童が材料の色や形を意識するきっかけになると考えた。また，活動場所をグループで交流できる机配置にしたり，お互いの作品を見合う時間を設けたりすることで，友達の作品紙皿の工作活動を通して，自分の表したいイメージをもって表現する児童の育成を目指す。

(3) 児童の実態 (3年生 男子12名 女子12名)

①紙皿を使って何かつくったことはありますか。

ある…14名 (58%) ない…10名 (42%)

②紙皿を使って何をつくりましたか。

・顔 ・フリスビー ・楽器 ・ロボット

③紙皿を使ってつくってみたいものはありますか。

・兄弟が遊べるもの ・動物 ・ボール ・びっくり箱のようなもの (仕掛けのある作品) ・車  
・楽器 ・家族の顔

本学級の児童は、「紙皿を使って何かつくったことはありますか。」の質問では、58%の児童が紙皿を使った工作活動に取り組んでいる。「ある。」と答えた児童の多くは、幼稚園や保育園での工作活動で、顔や楽器をつくったと答えた。また、「紙皿を使ってつくってみたいものはありますか。」の質問では、誰かと一緒に遊べたり、楽しめたりするものをつくりたいという児童が半数以上いることがわかった。結果から、作品をつくるだけでなく、誰かと共有したいという思いがあることが分かった。

(4) 仮説との関わり

<仮説1について>

手立て①各学年の発達の段階に応じた授業展開の工夫

前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表現の仕方を工夫して表す力を育むため、中学年では、紙皿を使った工作活動に取り組んだ。50%の児童が紙皿を使って何かつくったことがある経験があり、紙皿は児童にとって身近な材料である。紙皿は、加工のしやすさや、他の材料と組み合わせを楽しむことができる材料であることから、工作活動に取り組むことで児童が自分の思いを表現することができるだろうと考えた。

手立て②材料との出会わせ方の工夫

児童に紙皿のみを使って、切ったり、貼ったりしながらどんなことができるのかを考え、実際に試して見ることで、イメージを広げ、児童が自分の思いを表現する手立てとなると考えた。

<仮説2について>

手立て①互いの活動が見合える場の設定をする。

制作過程の様子をお互いに見合える机配置にすることで、自分の見方や感じ方を広げながら制作活動に取り組めると考えた。

手立て②活動時間の始まりや途中で相互評価の場を意図的に設ける。

前時のふり返りや、活動の途中で友達の作品のよさを見つけ、伝え合う鑑賞の時間を設ける。鑑賞活動を通して、友達の作品のよさを自分の作品に取り入れたり、伝え合うことで自信をもったりし、自分の見方や感じ方を広げることができるだろうと考えた。


(5) 題材の目標

- ・材料の特徴を生かしながら，材料の形や組み合わせなどを工夫してつくり出すことができる。(知識及び技能)
- ・形や色，材料の特徴を生かしながら，自分のイメージをもつことができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・材料の形や色，組み合わせなどの感じをとらえ，つくり出す喜びを味わおうとする。(学びに向かう力，人間性等)



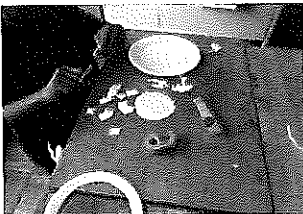
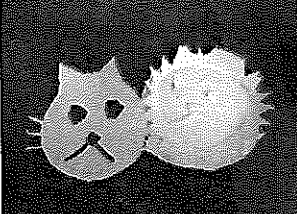
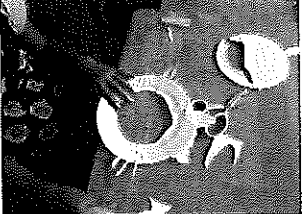
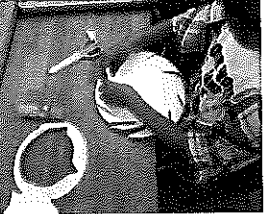
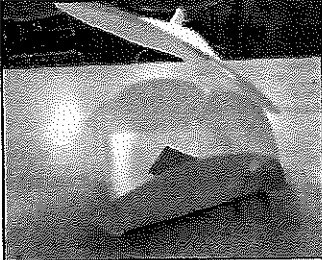
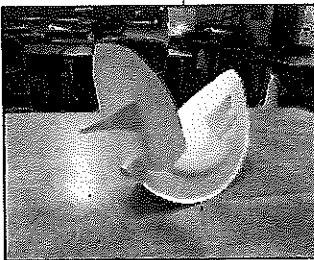
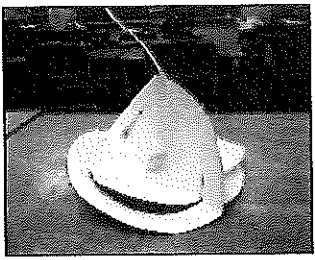
[共通事項との関連]

- ・自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じが分かること。(知識)
- ・形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつ。(思考力，判断力，表現力等)

(6) 指導計画 (4時間)

	主な学習活動	評価規準 (観点) [評価方法]
一時間	○「チャレンジタイム」 ・紙皿だけを使って何ができるか考え，試してみる。	○材料の形や色，組み合わせなどの感じをとらえ，つくり出す喜びを味わおうとしている。 (学) [観察・発表]
二時間 ～ 三時間	○紙皿大へんしん ・紙皿だけではなく，他の材料も取り入れながら，色をつけたり飾ったりして自分のイメージを表現する。  ・自分の作品の途中経過を伝えたり，友達の作品のよいところを自分の作品に取り入れたりする。(鑑賞活動)	○形や色，材料の特徴を生かしながら，自分のイメージをもつことができる。 (思) [観察・作品] ○材料の特徴を生かしながら，材料の形や組み合わせなどを工夫してつくり出すことができる。 (知) [観察・作品]
四時間	○鑑賞 ・自分の作品を紹介したり，友達の作品のよさを探したりしながら，鑑賞を行う。	○形や色，材料の特徴などを感じ取り，自分のイメージをもつことができる。 (思) [観察・発表] ○材料の形や色，組み合わせなどの感じをとらえ，作品の面白さや楽しさを味わおうとしている。 (学) [観察・ワークシート]

(7) 児童の学習活動

時配	学習内容・支援 (○活動・支援)	児童の様子
	<p>○切ったり, 貼ったりしながらどんなことができるのかを試す。</p> <p>紙皿で, どんなことができるかを自分で試したり, 友達の試している様子を見たりしてイメージを広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙皿とハサミ・糊のみを使って, 自分がイメージした物をつくることを知らせる。</li> <li>・紙皿は全て同じ大きさのものを用意し, 自由に好きな枚数を使えるようにする。</li> </ul>	<p>T「紙皿を使ってどんなものが作れるかな？」</p> <p>何でもいいの？</p>  <p>思いついたことやってみよう！ いろいろ試してみてね。</p> 
	<p>平面的な作品</p>  	 
	<p>ピザの形に見えてきたよ。</p> <p>お面ができた！</p>	<p>紙皿だから簡単に丸く切れる</p> <p>ブーメランにしようかな？</p>
	<p>立体的な作品</p>   	
	<p>『紙皿』との出会わせ方の工夫。</p> <p>○紙皿を使って, 作品づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は, 色をつけたり飾ったりしながら作品づくりに取り組むことを確認する。</li> </ul>	<p>&lt;仮説1 手立て②</p>

### 児童の活動例①

友達のチャレンジ作品



ぼくは、お面をつくったけど、Mちゃんの作品は、ゆらゆら揺れておもしろい



いろいろな材料と組み合わせてみよう！  
(材料コーナー)

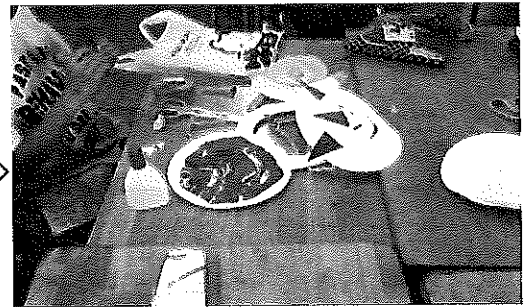
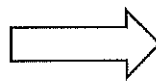


羽をつけて…次は卵を産めるようにしよう。  
(イメージの広がり)

### 互いの活動が見合える場の設定をする。

### <仮説2 手立て①>

### 児童の活動例②<4人グループの班の座席にする>

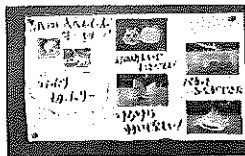


近くの友達の作品を参考にして、自分の作品にアイデアを取り入れる。

### 活動時間の始まりや途中に相互評価の場を意図的に設ける。

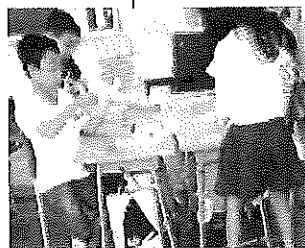
### <仮説2 手立て②>

### 児童の活動例③

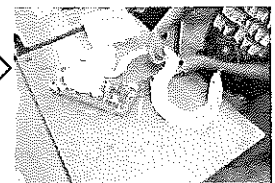
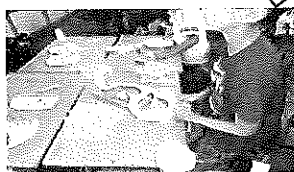


・製作過程の途中で、友達の作品のよさを見つけたり、伝えたりする活動を取り入れる。

いいこと思いついた！  
(作品を組み合わせる。)



糊やセロハンテープでつけられるね。いろいろ付けてみてもいいかも！



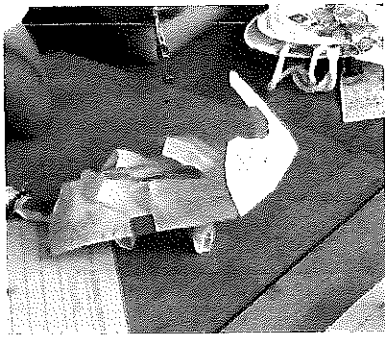
・見方考え方が広がることで、イメージが広がる。  
・自分のよさを見つけることで制作意欲が高まる。

・前時(チャレンジタイム)のふり返りから、自分にできることを考える。

あれだったら、できそうだな。



児童の活動例④<活動の途中にミニ鑑賞会を取り入れる。>



友達の作品を鑑賞して…

「足のバランスはどうやって合わせたのか知りたいな。」

「足をバランスよくつくっていて、そのおかげで強そうに見える



友達から感想を聞いて…

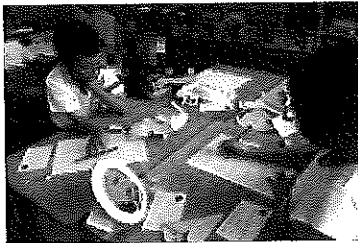
失敗したと思ったところもあったけど、自分のイメージしたことが表現できている！（自分の作品への見方が変わる。）

鑑賞会  
四時間目

児童の活動例⑤<作品鑑賞会>

・グループ(3~4人)で、作品について自分の作品の説明→友だちの作品のよいところを話す。

ほくの作品のいいところは…



ここは、どうやって留めたの？

これは、こうやるよ！！

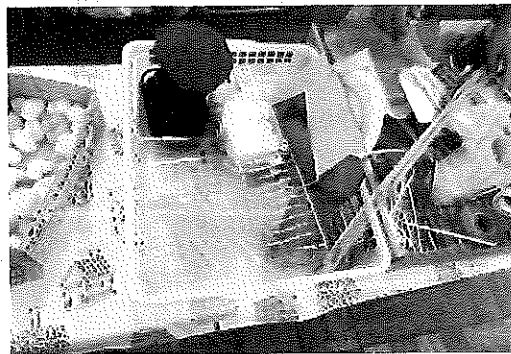
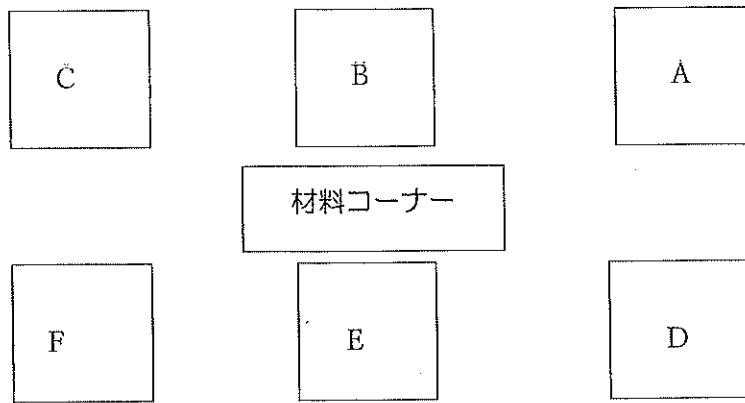


いろいろな見方ができることで、想像力が広がり、子どもたちの思考が深まる！また、友達から自分の作品のよさを認められることで…



もっと図画工作科の学習が好きになる。

## (8) 場の設定の工夫



- ・材料コーナーを設置し、紙皿以外の材料（モールやプラスチックのコップなど）を用意して、自由に使えるようにした。



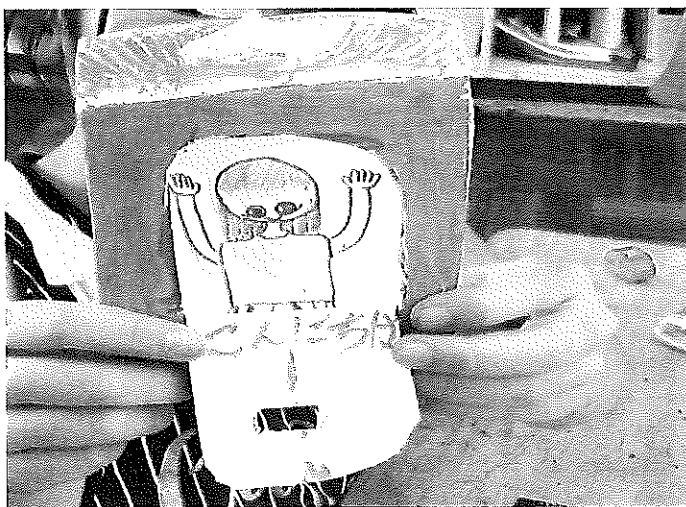
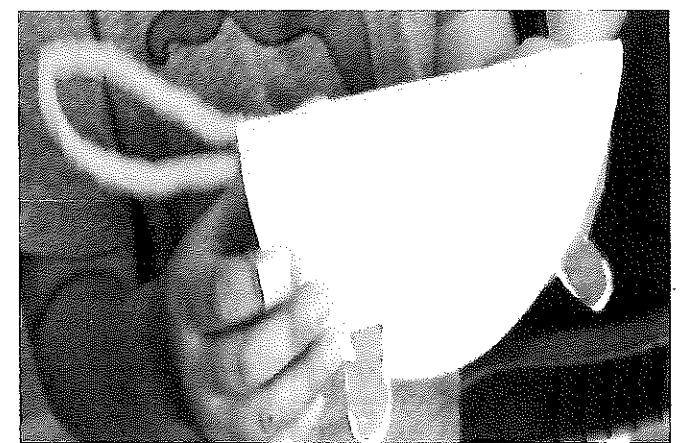
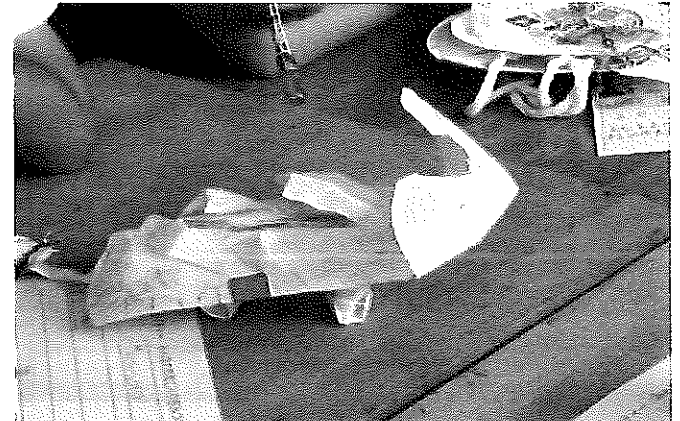
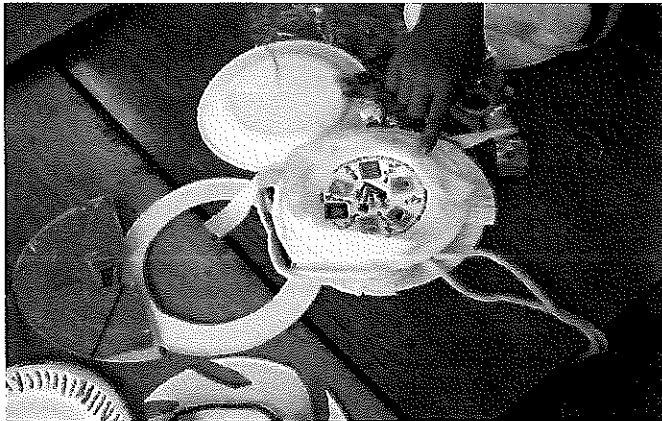
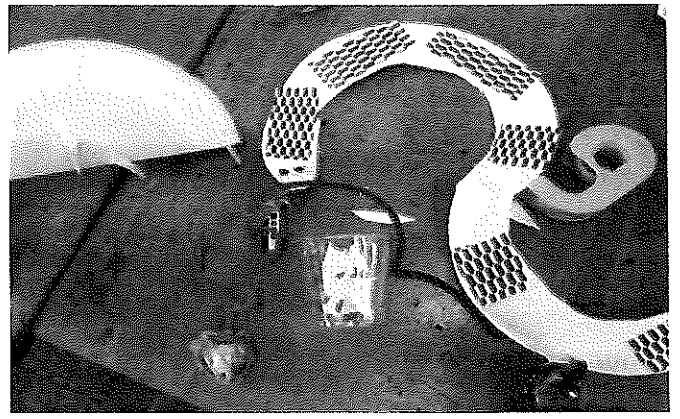
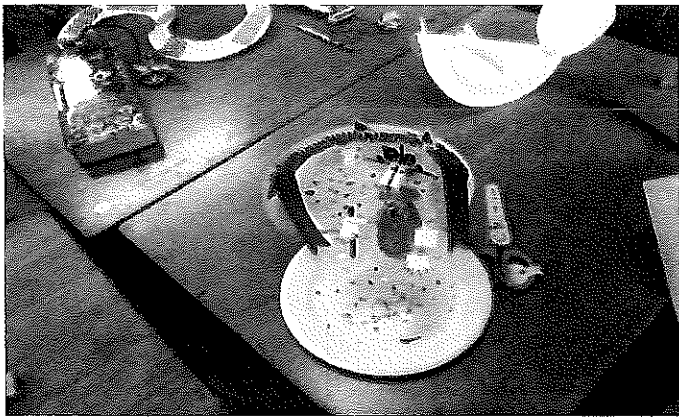
- ・友達の活動が、イメージを広げる手立てとなると考え、友達と向かい合わせで座れるよう、班の形で活動を行った。さらに、材料コーナーを教室の中央に配置したことで、材料を取りに行く途中でも、他の班の活動を見ることができるようにした。

## (9) 児童の感想

- ・はじめて紙皿でいろいろなものをつくって楽しかった。
- ・へビが変な物体と戦っているのを想像してつくるのが面白かった。
- ・いろいろな人の作品をみたらたくさんアイデアをもらえていいものが作れた
- ・紙皿でかっこいいものやかわいいものが作れることがすごいと思った。
- ・いろいろな失敗もあったけど、紙皿でいろいろなものをつくったり、見たりできて楽しかった。
- ・紙皿が本当にいろいろなものに変身していてすごいと思った。  
それに、いろいろなものがリアルに作れたから楽しかった。違う材料でも変身させてみたい。



完成作品例



## 成果と課題

### (1) 仮説1について

#### <成果>

##### 手立て①

- ・紙皿は、どの児童にとっても加工しやすい材料であったので、作品づくりに適していた。
- ・紙皿を切ったり貼ったりすることや、白い紙皿に自分で色を付けることで想像力豊かに作品づくりを行うことができた。

##### 手立て②

- ・お試タイムを取り入れたことで児童の興味関心を高め、さらに、イメージを広げる手立てとなった。

#### <課題>

- ・他の材料を取り入れたことで、様々なバリエーションの作品が完成したが、色に注目して紙皿以外の材料がメインになってしまった児童もいた。

### (2) 仮説2について

#### <成果>

##### 手立て①

- ・友達の制作過程が見える机の配置にしたことで、友達の考えを自分の作品に取り入れる児童の姿が見られ、児童のイメージが深まる手立てとなった。

##### 手立て②

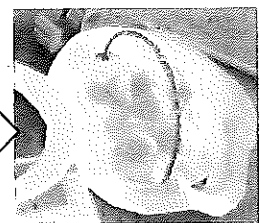
- ・作品のつくりの間にミニ鑑賞会や、グループで活動したことによって、作品のイメージがつかめない児童が友達の考えを取り入れながら意欲的に活動していた。



・紙皿を筒の形にすると、中に何か入れられるね。



・紙皿に他の材料を貼るのも楽しいね。



・紙皿を筒の形にして、卵を産めるようにした。

・紙皿に他の材料を貼ったよ。

#### <課題>

- ・友達の真似をするだけでなく、自分なりの工夫も大切にするよう助言する等の児童への手立てが必要であった。
- ・自分の班の中でしかアイデアを共有されていなかった実態があった。他の班の友達の作品を見る時間を設定すると、もっといろいろな考えを取り入れて作品づくりに取り組めたと考える。

# 高学年授業実践

前所属：佐倉市立西志津小学校 石井 音羽

(1) 題材名 紙皿オーナメントでモンキーパークを飾ろう

(2) 題材について

本題材は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容を受けて設定した。

## A 表現

- (1) ア 造形遊びをする活動を通して、素材や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。
- (2) ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前年度までの材料や用具についての経験や技術を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

## B 鑑賞

- (1) ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

### [共通事項]

- (1) ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
- (2) イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

本題材は、身近な材料である紙皿や紙コップを使い、場所や環境を生かしながら、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、思いついた活動をする造形遊びである。始めは紙皿と紙コップだけで活動を進めていくが、児童の中から「色を取り入れたい」という声が出てくると予想したので、その場合は様々な色の毛糸を用意し、紙皿や紙コップの白を生かせるようにする。

前所属校には「モンキーパーク」という木や遊具がある施設がある。そこに飾り付けをすることで高い所や低い所、広さや奥行きなどといった場所の特徴を生かし、伸び伸びと表現できる。

また、児童には飾り付けた「モンキーパーク」に1年生を招待しようという目標を設定し、いつもとは違うすてきな「モンキーパーク」にするために、意欲的に取り組めるようにした。

(3) 児童の実態 (6年生 男子17名 女子17名 計34名)

授業の前に、紙皿を扱った制作経験について実態を調査した。

①紙皿や紙コップを使って絵を描いたり、工作したりしたことがあるか。

ある・・・82%                      ない・・・18%

②どんな物を作ったことがありますか。

・メダル    ・風輪    ・ライオン    ・お面    ・マラカス    ・飾り

③紙皿や紙コップを使って、どんなことがしたいですか。

・友達や家族にプレゼントをつくりたい。    ・おもちゃをつくりたい。    ・動物をつくりたい。  
・積み木みたいに高く積んでみたい。    ・可愛い飾りをつくりたい。    ・風車をつくりたい。

④図工の時間を楽しいと感じますか。

感じる・・・71%

どちらかというと感じる・・・24%

どちらかというと感じない・・・5%

感じない・・・0%

児童の実態は、質問①より8割以上の児童が紙皿や紙コップを使って絵を描いたり、工作を行ったりしたことがあることがわかった。児童にとって紙皿という材料は身近な存在だということがわかる。質問②より幼稚園・保育園での工作活動や低学年での図画工作科や生活科の学習で様々な工作活動の経験が

あることがわかった。約9割以上の児童が図画工作科の学習を楽しい、もしくはどちらかというと感じているということがわかる。5%の児童は図工に関して苦手意識があり、授業でもなかなかどんな作品を作ったらよいのか手が止まってしまう状態である。

(4) 仮説との関わり

<仮説1について>

手立て① 各学年の発達段階に応じた授業展開の工夫

【材料について】

○始めは紙皿・紙コップの単色で工作をしていく。そうすることによりこれまでとは違うものの形に対する見方ができるようにする。飾りつけをするときにカラフルな毛糸を用意する。差し色を加えることにより、白をもっと際立たせることができるようにした。

【場所について】

○学校の敷地内にある「モンキーパーク」を飾り付けしていく。そこへ飾り付けをすることで高い所や低い所、広さや奥行きなどといった場所の特徴を生かし、伸び伸びと表現することが出来るようにする。

手立て② 材料との出会わせ方の工夫

【導入の工夫】

○切ったり組み立てたりを試す時間の設定

作品づくりをするために、紙皿や紙コップをどう切ったり組み立てたりしたらよいかを試し、友達と

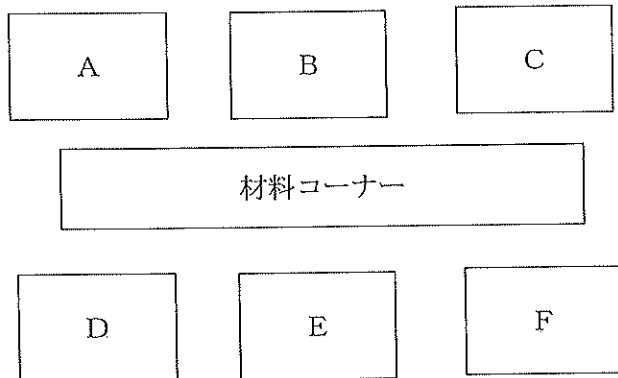
相互鑑賞することでよりよい創作活動になるようにする。

<仮説2について>

**手立て① 互いの活動を見合える場の設定の工夫**

○5・6人グループでの共同作業の場の設定

机の向きをグループ全員の作品が見えるように移動させた。そうすることによりいつでも友達の仕事のよいところを見つけられるようにした。



**手立て② 活動の始まり・中・終わりでの相互評価の場の設定の工夫**

○友達と自分の作品を見合い、よさを伝え合う鑑賞活動を行う

紙皿・紙コップなどの材料や千枚通しなどの道具を教室の中央に置き、取りに行く際は他のグループの友達の作品を見てどんなところがよいか伝えるようにした。また、困ったことがあったら何かアドバイスをもらうようにした。

○児童の意見を取り入れて飾り付けた「モンキーパーク」に1年生を招待しようという目標を設定し、いつもとは違いすてきな「モンキーパーク」にするために意欲的に取り組めるようにした。

(5) 題材の目標

- ・材料や場所などの形や色などを生かして、自分なりの世界を表現することができる。(知識及び技能)
- ・紙皿や紙コップの材料を生かしたり、飾る場所によって飾り方を工夫したりして自分の表現したいことを構想することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・材料や場所などに進んで関わり合い、その特徴を生かして、形や色にこだわった自分なりの世界を表現しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)


[共通事項との関わり]

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。(知識)
- ・形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。(思考力、判断力、表現力等)

(6) 指導計画 (6時間扱い)

時	主な学習活動	評価基準
一時間	○紙コップや紙皿を使い、切ったり組み立てたりしてどんな工作ができるか試す。	・紙皿や紙コップの材料を生かして、楽しく表現しようとしている。 (学：発言・行動)
三時間	○紙コップや紙皿を使い、モンキーパークを飾る飾りをつくる。 ○友達の作品のよいところを取り入れ、よりよい作品つくりができるようにする。	・紙皿や紙コップの材料を生かしたり、飾る場所によって飾り方を工夫したりして表現することができる。 (思：発言・作品)
一時間	○モンキーパークへ行き、広さや奥行きを考えて、遊具や木に自分たちの作品を飾り付ける。	・広さや奥行きなどの場所の特徴を生かし、飾り付けをすることができる。 (知：発言・作品)
一時間	○1年生を招待し、モンキーパークツアーを行う。	・友達の作品を鑑賞して自分の作品のよさに気付くことができる。 (思：発言・鑑賞カード)

(7) 児童の活動

時配	学習内容・支援 (○活動・支援)	児童の様子
素材との出会い (一時間)	<p>○紙コップや紙皿を使い、切ったり組み立てたりしてどんな工作ができるか試す。</p> <p>【仮説1手立て②との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手が止まってしまっている児童にはグループの友達の作品を見て、よい所を取り入れるように助言する。</li> </ul> <p>【仮説2手立て①との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品づくりをする時には、6人グループで1人ひとりの作品が見られるようにする。</li> </ul> <p>【仮説2手立て②との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料がなくなってしまった場合には、他のグループを経由して、鑑賞しながら材料を取りに行くことで、友達の作品のよい所を探し、自分の作品に取り入れるように助言する。</li> </ul> <p>T「紙皿や紙コップを使ってどんなことができるかな」</p>	<p>切ったり組み立てたりを試す</p> 



T「いろいろな切り方や組み立て方を試してみてね」

- ・互い違いに折ったら、食虫植物みたいになったよ。紙皿はやわらかいからいろいろな方向に折ることができるんだね。
- ・くるくる切ったり、紙皿をくり抜いたりしてみたよ。くるくる切ると細長くなってくるくる回るおもちみたいになったよ。
- ・折って切って開いたら規則性のある模様になったよ。
- ・いろいろな切り方でたくさんの種類の飾りが作れそうだよ。

- ・作った作品は今たくさん関わっている1年生に見せてあげたいな。1年生が遊んでいて楽しいモンキーパークにしたいな。



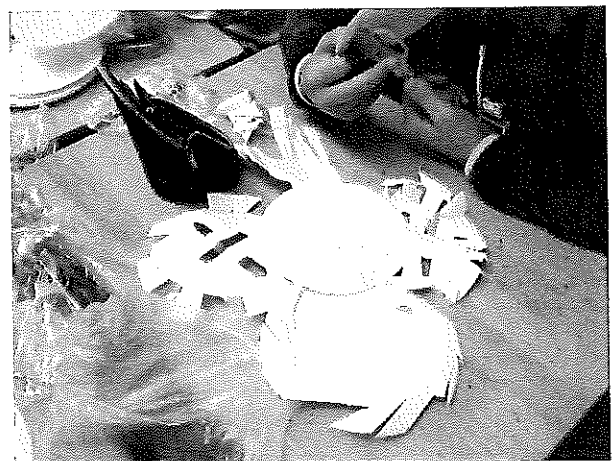
○実際にモンキーパークへ行きどんなオーナメントをつくりたいかイメージを持つ。

【仮説1手立て①との関わり】

【仮説2手立て②との関わり】

- ・モンキーパークを飾るための飾り付けをつくっていくことを伝える。また、そのモンキーパークに兄弟学級の1年生を誘うことを伝える。

T「モンキーパークへ行ってどんな飾りをつくりたいか考えてみよう」



○紙コップや紙皿を使い、モンキーパークを飾る飾りをつくる。

【仮説1 手立て②との関わり】

・手が止まってしまっている児童にはグループの友達作品を見て、よい所を取り入れるように助言する。

【仮説2 手立て①との関わり】

・作品づくりをする時には、6人グループで1人ひとりの作品が見られるようにする。

【仮説2 手立て②との関わり】

・材料がなくなってしまった場合には、他のグループを経由して、鑑賞しながら材料を取りに行くことで、友達作品のよい所を探し、自分の作品に取り入れるように助言する。

T「自分たちのグループの飾る場所によってどんな飾りを作ったらいいのか、どのように飾り付けたらいいのか考えながら作業していきましょう」

前時で試したことを基に作品づくりに取り組む

・望遠鏡みたいにたくさんの紙コップをつなげてみたよ。覗けるように紙コップの底はくり抜いたよ。



・紙コップに縦にはさみを入れてみるとお花みたいになったよ。私たちのグループはジャングルジムに飾ることになったから1年生がジャングルジムの登っても楽しい、下から見ても楽しい飾り付けにしたいな。

・タコみたいに紙コップの先を切って折り曲げたら見えて楽しそうな飾りができたよ。僕たちのグループはみんなで協力して60個以上の飾り付けをつくることにしたよ。



A児 紙コップを高く積み上げたのだが、重さに耐えきれずに倒れてしまい困っていた。



A 「どうやったら倒れなくなるかな」

T 「上が重くなっちゃうから倒れちゃうんだね」

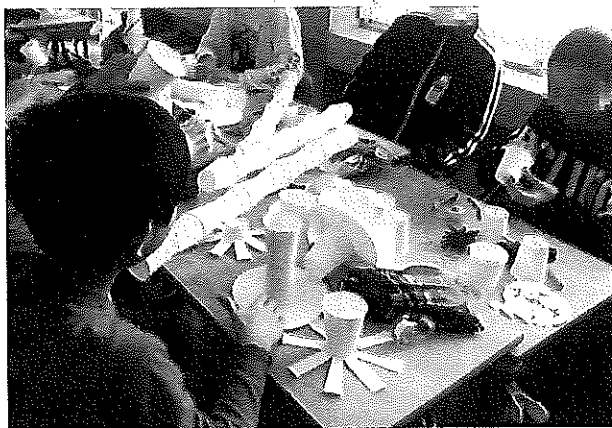
友 「それなら下におもしを入れたらいいんじゃないかな？」

A 「一番下の紙コップに土を入れて土嚢みたいにしたら立つようになったよ」

#### 友達からの感想

- ・上り棒へ飾り付けをするグループは紙コップで土のうみたいに使っていたことに驚きました。1つの大きなものを支えるのに今までの経験を生かされていてすごいと思いました。

B児 紙コップをどうつなげたらよいか考えている。



B 「望遠鏡のグループみたいにつなげたらおもしろいかも」

B 「ジャングルジムのグループの望遠鏡みたいにつなげてみたら、竹みたいになったよ」



B 「トンネルをつくっているグループみたいに積んでみたら、骨みたいな置物になりそうだよ！形が面白い！人間の背骨みたいだ！」

モンキーパークへ飾り付け〔二時間〕

○モンキーパークへ行き、広さや奥行きを考えて、遊具や木に自分たちの作品を飾り付ける。

【仮説1の手立て①との関わり】

- ・飾り付けにてこずっている児童には、グループの友達の作品を見て、どのようにして取り付けたらよいのかを聞きに行ってよいことを伝える。



・たくさんのカニをぶら下げよう。

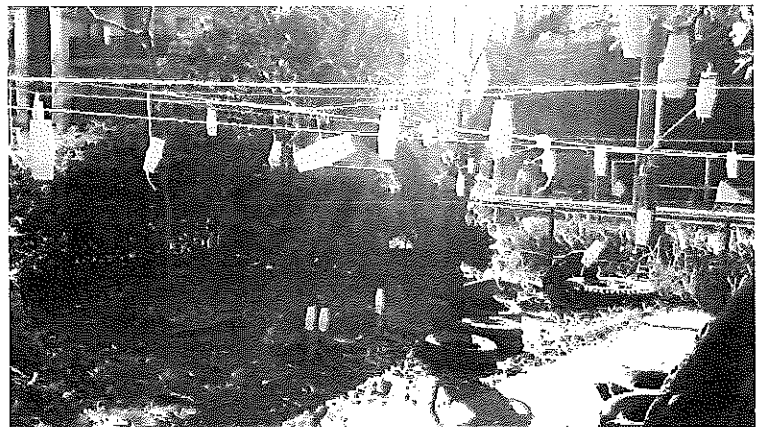


・望遠鏡はジグザグになるようにとりつけてみたよ。

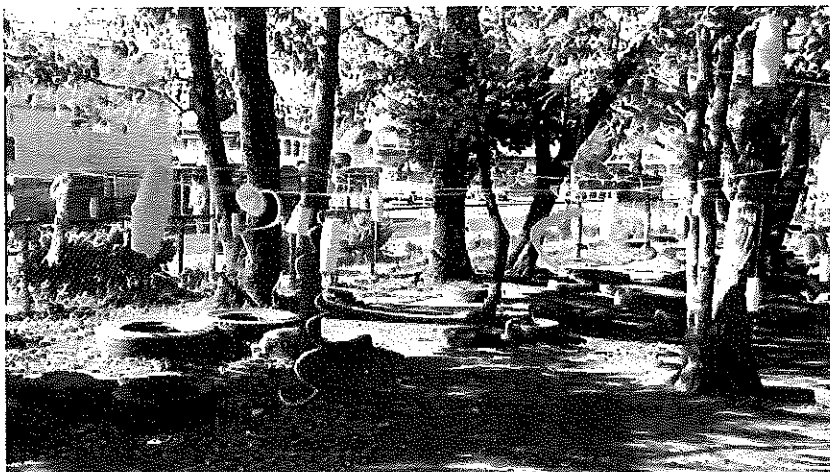


- ・たこを登り棒に取り付けたら、風に揺れておもしろかったよ。
- ・トンネルをくぐって上を見上げると、切ったところからお日様の光が見えてくるよ。土のうも、しっかりとトンネルを支えてくれていたよ。

- ・マラカスの飾りを木にひっかけてみたよ。1年生がマラカスを触って音が鳴るのを楽しんでほしいな。



- ・くるくるの飾りも風で回って楽しそう。



## (8) 成果と課題

### ○仮説1について

#### <成果>

- ・紙コップや紙皿はハサミでとても加工しやすく、切ったり組み立てたりがとても簡単だった。その結果いろいろな形の飾りをつくることができていた。
- ・木や遊具を飾り付けすることで、材料と場所、空間などの関係をとらえ取り組むことができた。
- ・切ったり、組み立てたりをする時間を設定することで、材料の特徴を知ることができた。

#### <課題>

- ・始めは白色だけで行っていたのだが、白を目立たせるために色つきの毛糸を加えた。白色だけのよさがあまりでなかったように思う。
- ・加工が簡単のため、単純な形ばかりつくる児童がいた。

### ○仮説2について

#### <成果>

- ・グループごとに作品づくりを行ったため、友達と協力し合いながら意欲的に活動することができた。
- ・他のグループの作品を自由に見ることができる環境をつくったので、他のグループのよいところを見つけて、自分たちの作品によいところを取り入れることができた。
- ・1年生と交流をしたため、自分たちの頑張りが認めてもらえた実感することができた。

#### <課題>

- ・始めは自分の考えを作品に表現するのが難しく悩んでいる児童が数名いたため、友達の作品を見るように助言したのだが、そのまま真似してしまう児童もいた。そのため、そのまま真似するのではなく、そこから発展することはできないかと助言した。

「共通の材料を生かした授業展開の工夫」  
～低・中・高学年の実践を通して～

## 5 研究のまとめ

### 素材について

どの学年においても紙皿は加工しやすい材料であり、子どもたちにとってとても身近でイメージを広げやすいものであった。

### 身に付けたい力の明確化について

各学年の身に付けたい力を明確にしたことにより、低学年では、造形遊びを通して手や体全体の感覚を働かせながら造形活動を行った。中学年では、材料の特徴を生かしながら自分のイメージを広げる工作活動を行った。高学年では、場所や環境を生かしながら、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえた造形活動を行った。以上の活動から、発達段階に応じた授業展開の工夫や材料との出会わせ方の工夫を行うことにより、意欲的に取り組むことができた。

### 相互評価の場の設定について

活動の中に相互評価の場を設定したことにより、低学年では、自然と他の友達と関わりながら活動に取り組み、豊かな発想に繋がった。中学年では、友達の考えを自分の作品を取り入れ、児童のイメージを深めることができた。高学年では、他のグループの良いところを見付け、自分たちの作品にそのよさを取り入れることができた。以上の活動から、自分の見方・考え方が広がり、表現する力が高まったと言える。

### 低・中・高学年の共通の課題について

共通の材料を使って、低・高学年では、造形遊び、中学年では、工作活動を設定したが、もっと他の材料やテーマでも授業展開を工夫していける可能性があるため、研究を続ける余地がある。